

第1回四国中央市子ども若者発達支援センター運営審議会 会議録

日時 | 令和5年7月6日(木) 13:30~

場所 | 子ども若者発達支援センター 研修室

出席者

[委員] (敬称略)

委員長 越智寛

副委員長 鈴木秀明

委員 石川千代子、大西由美子、河村英茂、合田真由美、近藤美沙、野本知津子、藤田昌子

[事務局]

発達支援課長 河村正志

センター長 大西緑

- ▶ 管理係 河村清児、加地真大
- ▶ 総合相談係 石川考太
- ▶ 発達支援係 森美琴
- ▶ 児童発達支援センター 高橋美樹
- ▶ 東部子どもホーム 森田慎也

欠席者

[委員] (敬称略)

なし

傍聴者

なし

1 開会

課長 本日は福祉部長が他の公務と重なってしまったため欠席となっている。近年若者を取り巻く環境はインターネットやスマホの普及、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、親子関係の変化など昔と比べると変わってきている。そのような中パレットでも様々な相談を受けているが、まだまだ至らない部分もあると思っている。委員の皆様には忌憚のない意見をお願いしたい。

委員長 本日は非常にボリュームのある内容になるが、活発な意見をいただき、本日の内容がすぐに実践にいかせるような気づきや安心して暮らせる地域づくりにつながればと思う。限られた時間になるがよろしくをお願いしたい。

2 議事

(1) 議事 1 令和4年度第2回会議録の確認

事務局 《第2回審議会会議録の修正点を説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 特になし。

(2) 議事 2 2022 年度事業報告

事務局 《事業報告（重点施策）を説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 前回の審議会の中でも言ったが、実績報告として数字だけを聞かされても何も言えない。職員の配置人数や最大のキャパ数、目標に対しての数字がないと、これだけでは適切かどうか分からない。定員に対する利用者、平均稼働率、目標の達成状況などを示していただきたい。件数も正直これだけかという数字で驚いている。保育所等訪問に関しても前回あれだけ意見が出たが、5年の実務経験があるので準備中ということはまだ何年かかるか分からないということなのか。

事務局 報告書の記載方法に関しては前回から考えているが、兼務業務が多く、どの目標が適切なのか判断しにくいところがあり、整理できていないためこれまでと同様の報告となってしまった。今後何らかの方法で対応したい。保育所等訪問については、昨年度組織改編もあり、経験の長い職員が相談業務専属とサービスにくっきり分かれておりニーズに対応できていなかったが、今年度はそれを見直しているのので、要望があれば相談いただきたい。

委員 保育所等訪問支援は業務としてはあるが、実績として件数がないだけということなのか。

事務局 その通りである。

委員 基幹相談支援事業についてだが、役割としては計画相談事業所に繋ぐことと、スムーズにサービスが利用できるようにすることだけが役割なのか。

事務局 繋ぐことも事業の一つであるし、子ども若者総合相談で全体的な相談も受けている。今回は繋ぐというところにクローズアップして報告をさせていただいた。

委員 検査の実施件数についてだが、相談を受けている立場として特に今年度 WISC-V という検査が出てきて、なかなか検査をしてくれる人がいない状況になっているのももう少し何とかならないかという願いがある。

事務局 所属機関の困り感や保護者との話し合いなど、総合的な相談の中から検査に繋がっているが、検査に繋がるまでに時間がかかると言われたこともあった。こちらとしてもそこはスムーズにしたいと考えている。今年度は件数も伸びると思っている。

委員 こういった検査は保護者が検査を要望すれば受けることができるのか。前提条件はあるだろうが、キャパの問題や体制ができてないからと断られることはないのか。

事務局 検査を要望するとなると親の中でいろんないきさつがあつてのことだと思うが、園や学校での様子が心配であるとか、家庭での育てにくさなどの困り感から相談していただきながら、何の検査ができるか、年齢によってできる検査も違ってくるのでそこも相談させていただきながら検査が必要なお子さんには検査を行っている。

委員 学校や園に在籍はしているが、馴染めずに悩んでいる場合の相談はどうしているのか。

事務局 流れとしては、まず心配事があって連絡があった場合、来所していただいて話を聞いたり、遊びの中で様子を見させていただいている。あと所属機関との連携として電話で学校等での普段の様子を聞いたり、パレット訪問という形で集団の中での様子を直接見ている。その結果を保護者や園に報告する中で検査の話が出てくる。医療と違うところは、医療はドクターが判断すればすぐ検査になるが、こちらは支援に活かすことを考える必要があるので医療と差はあるかもしれないが、出来るだけ早く進めれるようにしたい。

委員長 相談件数の報告の内訳の中で、幼児期のその他の件数が多くなっているが、具体的にどういった内容であったのか。

事務局 年中児の5歳児アンケートをここでカウントしているため、その他の件数が多くなっている。報告書に記載する項目として細分化するなど次回以降、検討したい。

委員長 スライド18のケース会の実施・参加とあるが、パレットは参加という形で主催することはあまりないのか。

事務局 基本的に所属機関からの依頼や相談を一緒にすることが多く、ケース会は話をしながらになるが、主催は所属機関がすることが多い。パレットだけに来ているお子さんは少なく、若者のケースに限る。学齢期・幼児期であれば所属機関があるのでこちらが主催となり、パレットは参加ということになる。

委員長 先ほどもあったが、基幹相談支援事業についてはこの報告書と説明では、引き継ぐことだけが基幹の仕事のように見えてしまう。そうではなく、繋いだ後も繋ぎ先からの相談を受けたり、その後のフォロー等もあるはず。引き継ぐだけの支援に終わらないとなると、ケース会を主催することも多くなると思うので、基幹相談支援事業という名称のあり方や、その他の関連する業務の事について、報告のまとめ方など、相談させてほしい。

事務局 基幹相談支援センターとは連絡会もしているので、その中で相談できればと思う。

委員 パレットの放デイや児童発達支援センターの定員が知りたい。また、その定員に対して利用人数が何人いるのか、そこが知りたい。それと若者に対して調理室での訓練などは行っていないのか。

事務局 まず、定員に関しては条例にも規定されているが、児童発達支援センターが35人、放デイが45人となっており届出もしている。これはパレットができた時に、それまで各地域にあったホームを集めて最大限利用できるところで組んでいる。しかしながら、職員の募集をするがなかなか集まらず人員不足となっている事や、定員に対して居室が狭いなどにより実際の利用者数は少なくなっている。若者については、サービスではなく、基本的に相談の一環として受けることとなっており、療育でないが、本人の希望や相談内容に応じて、調理や運動等の体験活動もしている。

委員 事業所の指定を受けているのに、部屋が狭いということはないはず。指定を受けるには基準があり、それをクリアするのに大変な苦労もある。人員も一人欠けるだけでも事業所を休止しなければいけないほどシビアである。我々民間の事業所もその辺りは大変な思いをしてやっている。

事務局 おっしゃるとおりである。この問題点に関しては以前から話もさせていただいており、ご指導もいただいているところである。この後の議事にもあるが、これを解消するために、今年度はパレットの体制の変更も検討することとしている。事業報告についても次回以降、数字を出せるように精査していく。

(3) 議事 3 2023 年度重点施策

事務局 《2023 年度重点施策を説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員長 では私から 1 つだけ。重点施策として 3 つの説明があったが、達成時期はいつ頃を考えているのか。

事務局 達成時期はそれぞれの項目で定めており、特に今年度、重点的に進めていこうとしているのが、保育や療育を行う体制整備と人材確保である。人材確保に関しては人事課との協議も必要であるが、今年度中に方向性を出せるようにしたい。

(4) 議事 4 障害児入所施設

事務局 《障害児入所施設を説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 施設のイメージ図のようなものはまだないのか。

事務局 現在設計委託にむけて準備中でありまだないが、9 月頃には出来上がる予定なので、第 2 回の審議会にはお示しできると思う。

委員 それまでに言っておきたいことは言っておいた方が良いのか。

事務局 PT 会議や他の関係機関から意見聴取する機会を設けるので、いただいた意見を設計業者にも伝えながら、進めていきたい。

委員 短期入所は空床利用とあるが、定員の 10 名まで入所すると短期入所はできないということなのか。

事務局 定員 10 名に対して短期入所分は内数なので 2 名分は確保しながら運営していく予定である。短期入所のニーズは非常に高いものと思っており、事務局としてもそこは重要視している。

委員 先進地視察の報告書も見ていて思ったが、まず食事について調理室を作るようになっているが、外注してはどうか。洗濯室も建物内に構えるようになっているが、これも外注するかパレットにもってこれないか。あと全室個室ならば、静養室は必要か。これらを有効活用すれば、部屋数を増やしたり、日中一時や医療的ケア児の受入れなど他の用途にも使えるのではないか。

事務局 頂いた意見については、今後の会の中で検討していきたい。

委員 かなりタイトなスケジュールだと感じる。ハード面に関しては業者が設計し、施工もするのでそれなりのものが出来上がるだろうが、個人的にはソフト面がとても不安であ

る。先程の報告などからも人員体制等、今のパレットを見ているときちんと運営していけるのかどうか不安でしかない。そもそも 10 人のお子さんを見ていくだけの人材がいるのかどうか、いないのであれば教育もしていかなければいけない。そうなる時間にかかる。その辺りをパレットとしてはどのように考えているのか。

事務局 現在指定管理に派遣している太陽の家の職員が戻ってくるので、人員に関しては教育が必要ではあるがその職員を充てるのも 1 つの案として考えている。ただしあくまで検討段階であり人事課との協議も経て、最終的にどうなるかは分からない。

委員長 その辺りの具体的なところは今後の PT 会議等で決まってくるのか。

事務局 PT 会議や関係機関からの意見を真摯に受け止めながら、どこまで反映できるかなど検討していきたい。

委員長 本審議会から PT 会議に 3 名の委員がメンバーとして参加するようになっているが、会議の時間はどれくらいか。

事務局 回数も多くなってくるので、内容にもよるがあまり負担が大きくなりすぎないように、1 時間半から 2 時間くらいまでの予定である。

委員長 委員報酬はどうなるのか。

事務局 予算も確保しているので、適切に支払いさせていただく。

委員長 建設スケジュールとして、第 2 回の運営審議会が臨時で開催されることとなっているがこれについて委員の皆さんから何か意見などはないか。

委員 意見・質問なし。

委員長 9 月下旬となっているが、具体的な日にちは決まっているのか。

事務局 9 月 21 日（木）にこの会場で予定している。また改めてご案内するので参加をお願いしたい。

委員長 PT 会議のメンバーとなっている 3 名の方も負担が増えることになるがご協力いただけるということで構わないか。

委員 意見なし。

委員長 施設整備検討会やパレットとの体制協議の内容は改めて本審議会の中で報告いただけるのか。

事務局 進捗状況などについて、次回の審議会でご報告させていただく。

(5) その他

①「パレット・レター第 37 号」について

事務局 《パレット・レター第 37 号の内容を説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

②四国中央市あったか子育てセミナーについて

事務局 《四国中央市あったか子育てセミナーを説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

③次回の開催予定について

事務局 《審議会の開催予定を説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

④質問事項について

委員長 全体を通して最後に何か質問事項などはないか。

委員 今日で審議会で事務局からの説明を聞いていて、パレットも学校現場に似てきていると強く感じてしまった。学校の教員もニーズの多様化や国からの通知・指導等の対応でいっぱいになっている。業務改善や一時期スクラップ・アンド・ビルドの推進と言われたこともあったが、スクラップはなかなかできずに、新しい事は増えていくばかりである。やはり人の数が大切。特に専門職のような資格を必要とする職種の人材というのはより必要となってくる。パレットには何かとお願いすることも多いが、並行して、市全体で工夫しながら、お互いに協力できるところは協力し合いながらやっていかないと、現場で対応する職員が疲弊してだけで、四国中央市の発達支援の取組として発展していかないと、毎年同じことの繰り返しになってしまう。

委員 人口がこれだけ減ってきて高齢化も進んでいる中なので特定の人だけでなく、もっと広く一般市民に呼び掛けて、巻き込んでいく仕組みができれば良いと思う。ハード面ではなくソフト面で何かできることはないかと考えている。

3 閉会

副委員長 素晴らしい意見をたくさんいただいたので言う事はないが、私は朝から病院に行っていて、17歳のある女の子が入院しているのだが、その子が退院して地域に返ってくる時にどうするか話をしてきた。この子に必要なのは医療なのか、障害福祉サービスなのか、家庭なのか、地域の理解なのか、本人の我慢なのか、いろいろ話が出たが結局は全部必要ということである。その時に、何処かの誰かが全てを専門的に請け負うようになるとしんどいと思ってしまう。過去にパレットや基幹相談支援センターなど、いろんな立場の方が繋いでフォローもして、一つのチームのようになってある家庭を支えていった事例があった。その事を思い出していたが、どこか一つが専門的に解決するのはとても難しい状況になってきているので、その事例のようにいろんな機関が繋がっていく中で一つのチームになれば良いし、自分もその一員でありたいと思っている。それをパレットが繋いでくれたらそれはすごい事だと思う。課題は山積しているとは思いますが、いつまでもみんなを繋いでくれるパレットであってほしいと願って期待している。